パネルディスカッションP2-2
看護管理者から考えるHBOの安全管理
ー研修後アンケート結果からー

田代卓良
特定医療法人　白石脳神経外科病院

【はじめに】高気圧酸素療法（以下HBO）とは，手足の血管閉塞や心筋梗塞，熱傷や潜水病，特に脳卒中の急性期には，神経症状などが改善する例が多く，治療として有効な方法であるが，気体の性質上，可燃物の存在や着火源の存在が加わると火災爆発事故といった重大な事故も免れない。

そこで今回，臨床工学技士による，高気圧酸素療法の火災事故事例を用いた安全教育研修後に，看護師の高気圧酸素療法に対する認識と臨床工学技士に求める役割について，認識の調査を行い，今後の看護師教育ならびに臨床工学技士と協働しての安全管理の再考としたいと考えた。

【目的】看護師の高気圧酸素療法に対する認識調査と臨床工学技士に求める役割について，認識の調査を実施し，今後の看護師教育ならびに臨床工学技士と協働しての安全管理体制を見直す。

【方法】対象は，平成22年7月8日・7月12日，いずれも臨床工学技士が実施した高気圧酸素療法の火災事故事例を用いた安全教育研修に参加した看護師および保健師，准看護師（40名）とし，無記名の質問紙調査を行った。

質問の内容は，看護師歴，高気圧酸素療法に携わった経験年数，これまでに高気圧酸素療法においてヒヤッとしたことの有無，それはどんなことか，今回の研修の学びはあったか，今後看護職としてどのようなことに留意し高気圧酸素療法を受けられる患者の看護にあたるか，高気圧酸素療法においての臨床工学技士の役割についてどんなことを期待しているか，今後どのような研修があると良いか，についてとし，結果をKJ法で解析した。個人情報の保護と処遇・待遇に不利益がないことを説明した。

【結果】質問紙回収率は，100％，平均看護師歴は10.8年，高気圧酸素療法に伴う看護平均経験年数7.9年であった。これまでに高気圧酸素療法において「ヒヤっとした経験がある」ものは，半数の20名50％，内容としては，「タンク内への危険物を持ち込んだ」が6名，「持ち込みそうになった」が10名，「患者の状態の変化が心配になった」が4名であった。今回の研修の学びとして，「事故の具体例がわかった」とするKJ法によるカテゴリー数が20，「事故防止対策の必要性がわかった」が20，「事故の危険性を感じた」46，少数であるが，「治療に疑問を感じた」とするものが，2であった。今後，看護職としてどのようなことに留意し高気圧酸素療法を受けられる患者の看護にあたるかでは，「他部門との協働」が2，「ダブルチェック」4，「患者の持ち込みやバイタルのチェック」32，「患者説明」が14であった。高気圧酸素療法における臨床工学技士の役割について，どんなことを期待しているかでは，「患者の危険物の持ち込み予防確認とダブルチェック」が最も多く38，「患者への危険物の持ち込み防止の説明・指導」が次いで多く33，「看護師への，危険物持ち込みなどについての指導・教育・啓蒙」25，「高気圧酸素療法の各症例に対する治療紹介等」が20，「高気圧酸素療法中の地震災害時の対策・対応，患者急変時の緊急脱出の手順化」22，「高気圧酸素療法の定期点検およびメンテナンス状況の把握」13，「施設責任者等への高気圧酸素療法に関する指針等の提言」11，「高気圧酸素療法における安全管理対策研修」23，「高気圧酸素療法における安全管理対策に対する新しい知見の伝播」23となっている。また，今後どのような研修があると良いかについては，この度のような「実際の事故事例から学ぶ研修」や「HBO症例治療実績評価」などであった。

【考察】ほとんどの看護職が爆発事故の危険性を身近に感じ自身の確認の徹底および臨床工学技士との協働が重要であると認識していることがわかった。

【まとめ】HBOの安全管理は看護教育と随伴しCEの役割実現が重要であり教育に効果的である。